

## 一般会計補正予算（第2号）修正案に対する賛成討論

渡辺俊三

2017年6月30日

日本共産党宇治市会議員団を代表して、「修正案第2号 議案第45号、平成29年度宇治市一般会計補正予算（第2号）に対する修正案」の賛成討論を行います。

（仮称）宇治川太閤堤跡歴史公園整備運営事業は、その債務負担行為設定が2度にわたり否決され、整備事業を今回見直し、三度（みたび）提出されたのが今回の〈債務負担行為設定〉補正予算です。

ところが見直したとの説明でありながら、市民負担が増える内容となっています。

総額88億円の本事業は、今後の市政運営に深刻な影響をもたらすものです。市政には、中学校給食の実施や学校施設・トイレ等の改修、公共施設の耐震化、保育所待機児童解消、介護支援施策、医療費補助の拡充、地域公共交通の整備など実施すべき喫緊の課題があります。

歴史公園整備の財源確保で市民サービスが低下するのではないかとという市民の心配に対して、市長は、行革の徹底、公共施設削減、職員賃金にも踏み込むと発言されています。

議会質問では、「太閤堤跡歴史公園がなくても、今、誰も困らない。」という指摘もありました。

市民の方から「事業をぜひ進めてください」という声は聞きませんし、2度の市長提案の予算削除という議会の決定にも批判の声は届いていません。

市民生活を犠牲にしてまでの不要不急の巨大整備計画は考え直すべきです。

市民の方からは、「歴史公園事業は市民生活に役に立つのですか。」という声をききます。

観光入込客数の増加や地域経済への波及効果についての質問に対して、確かな説明がなされていません。

逆に地元のレストラン・食堂や土産物店の客を奪うことになりかねませし、事業会社への地元企業参入が今のままでは難しい仕組みになっています。

市民生活に役立つどころか、不安が先立ちます。

地域経済への波及効果のほどもわからず、税収が増えるかどうかもわからず、20年間にわたって市の財政負担だけが確実に続くのです。

議会質問や市民の声を振り返りますと、

「どんな施設・公園になるのかイメージがつかめない。」

「今、この歴史公園がなくても市民は困らない。」

「そもそもこの事業が市民生活に何の役に立つのか。」

「今市民生活で喫緊の課題となっていることにこそ予算を使うべきではないか。優先順位が違うのでは。」などなど。

事業に対する根本的な問題点が議会からも市民の間からも出ているこの事業計画は考え直すべきです。

こうした状況を踏まえ、さらに議会でも議論を深め、市民の間でももっともっと理解を広げるためにも、今議会での債務負担行為の設定は見送るべきです。

わたしたちは、計画の根本的な見直しを求めています。

おもな内容は、①事業規模の縮小②PFI方式をやめる③宇治公民館・市民会館の存続建て替えです。

みなさんと引き続き、話し合いをしていきたいと考えます。

以上、「修正案第2号」に対する賛成討論とします。